

群 教 セ	G01-02
	平22.242集

# 伝統的な言語文化に親しむ児童を育てる 国語科指導の工夫

—楽しい授業づくりを目指した指導の手引きの作成と活用を通して—

長期研修員 宮一 美樹

## 《研究の概要》

本研究では、伝統的な言語文化に親しむ児童を育てるために、楽しい授業づくりを目指した指導の手引きを作成し、それを活用して授業を行った。この指導の手引きでは、教材とのわくわくの出会いの活動、いろいろな音読活動、いきいきと表現する活動の三つの活動を取り入れることを指導の基本とした。そして、伝統的な言語文化の楽しい授業づくりのポイントを各学習内容ごとに提案した。

**キーワード** 【国語-小 伝統的な言語文化 指導の手引き 親しむ】

## I 主題設定の理由

新学習指導要領では、従来の「言語事項」に代わり、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が設置された。この背景には、教育基本法が改正され「伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」という条文が加えられたことがある。これを受け、学校教育法にも伝統と文化を尊重する態度を養うことが明言され、平成20年の中央教育審議会の答申において、「伝統や文化に関する教育の充実」という項目が盛り込まれた。学習指導要領の改訂で、「我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てる」ことを目指し、そのために「伝統的な言語文化に低学年から触れ、生涯にわたって親しむ態度の育成」を重視しているのである。これらのことから、児童の日常生活、言語生活と、日本の伝統的な文化を結び付け、生涯にわたって古典や物語、民話などに親しむことができるような児童を育てる学習活動を工夫していくことが求められていると言える。また、平成22年度の群馬県学校教育の指針では、「目指す言語能力」を育成する指導の充実を重点目標の一つとし、その中で「相手意識・目的意識・方法意識をもって表現する言語活動の工夫」が提言されている。このことから、伝統的な言語文化の学習においても、表現する活動を取り入れながら学習していく必要があると考える。

協校校では、平成20年度から、表現力を高める学習活動の工夫をテーマに、国語科の研修に取り組んできた。その中で、校内俳句大会を開いたり、百人一首に取り組んだりして、五七五のリズムに親しみ、日本語のよさを感じ取ることができるような児童の育成に努めてきた。しかし、これらの活動を「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導と結び付けて、系統的に指導するまでには至っていない。さらに、教師側には、どのようなことを指導したらよいのか、音読や暗唱活動を取り入れるだけでよいのか、親しむとは児童のどのような姿をさすのか、などのとまどいが見られる。また、児童の実態を見ると、昔話を知らなかったり、いろはかるたで遊んだりしたことのない児童がほとんどである。日常生活の中で、伝統的な言語文化に親しんでいる様子は、あまり見ることができない。

以上のことから、伝統的な言語文化の学習を系統的・計画的に行っていくよう、学習内容と教材に学習活動を結び付けた学習系統表を作成する必要があると考えた。その上で、児童が意欲的に学習に取り組むことができる授業を行うために、楽しい授業づくりを目指した指導の手引きを作成する。この手引きでは、教材との出会いを工夫し、音読活動と表現する活動を織り交ぜた指導を基本とする。児童が興味をもって伝統的な言語文化に出会い、意欲的に学習に取り組むことができるよう、お話の紹介、紙芝居や音読の発表、短歌や俳句作り、随筆の執筆などさまざまな活動を行っていく。これらの活動を通して、楽しみながら学び、伝統的な言語文化に親しむ態度を育てていくことができると考えた。

そこで本研究では、学習系統表を基に、各学年の教材についての単元計画と、1時間の授業の流れが分かる略案、板書計画、ワークシート、資料を入れた指導の手引きを作成し、伝統的な言語文化に親しむ児童を育てていくための授業づくりについて提案していきたいと考え本主題を設定した。

## II 研究のねらい

伝統的な言語文化の指導において、楽しい授業づくりを目指した指導の手引きを作成して、その手引きを授業に活用することにより、伝統的な言語文化に親しむ児童を育てることができることを実践を通して明らかにする。

## III 研究の内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 伝統的な言語文化に親しむ児童について

伝統的な言語文化に親しむとは、児童のどのような姿を指すのか。親しむとは、日常的にそのものに接してなじむことである。したがって、伝統的な言語文化に親しむ児童とは、古典の存在を知り、自分から昔話や神話を楽しんで読んだり、日常生活において、ことわざや慣用句を使ったりすることができる児童、また昔の人の思いや考えに共感し、親しみをもつことができる児童であると考えた。授業を終えた後の児童の感想に「また古典を勉強してみたい」、「他の古典を読んでみたくなった」等の記述があれば親しんだことになると言えるであろう。授業で学んだ教材をきっかけにして、自分でも古典を読んだり俳句を作ったりしてみたい、と思えるような児童の姿が伝統的な言語文化に親しむ姿であると考えた(表1)。

表1 目指す児童・生徒像

<p>小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の人が書いたものを古典というのだな。</li> <li>・古典の授業は楽しい。</li> <li>・昔話もおもしろそうだ、読んでみよう。</li> <li>・自分でもことわざを使ったり、俳句を作ったりしてみよう。</li> </ul>		<p>中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校ではどんな古典を勉強するのだろう。</li> <li>・古典は面白いから好きだ。</li> <li>・同じ時代の違う作品も読んでみよう。</li> <li>・作者について調べてみよう。</li> <li>・書いたり、続きを作ったりしてみよう。</li> </ul>
---	---	--

#### (2) 指導の手引きの作成について

伝統的な言語文化に親しむ児童を育てるためには、児童にとって楽しく充実した授業を行っていくことが重要である。児童が古典の世界に興味をもち、楽しみながら文語の文章に慣れ、古人の考え方を知ることができれば、古典の世界と現代の世界はつながっていることに気付き、伝統的な言語文化に親しんでいくことができるであろう。そこで、指導者が授業を計画する際に活用できるような、指導の手引きを作成した。この手引きを基に授業を行うことによって伝統的な言語文化に親しむ児童を育てることができると考えた。

図1は、研究の構想を図に表したものである。

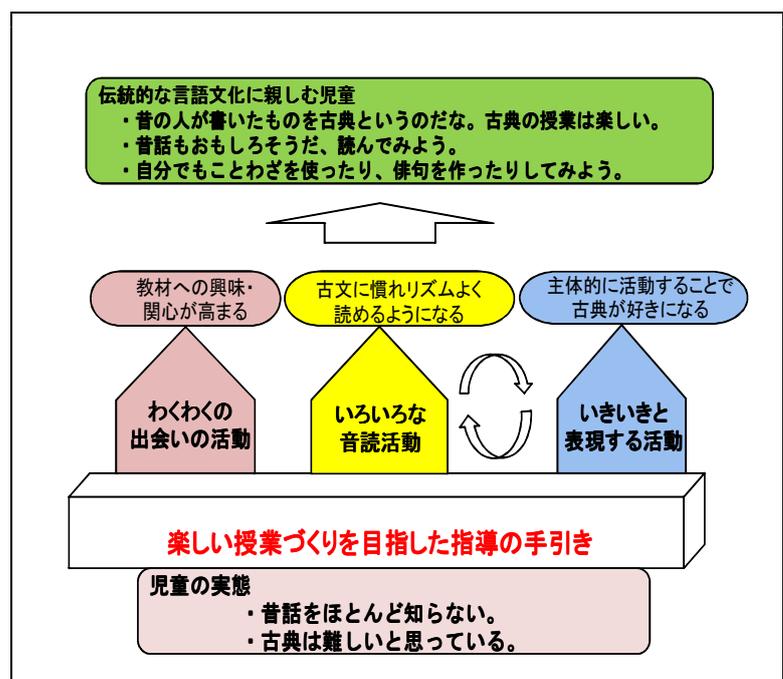


図1 研究構想図

## 2 教材の概要

### (1) 指導の手引きの三つのポイント

すべての教材において、教材との出会いを工夫すること、音読活動と表現する活動を織り交ぜた学習を行うことを基本にする。音読活動と表現する活動を織り交ぜることにより、児童は主体的に学習に取り組み、表現する力や内容への関心を高めていくことができると考える。そしてこの三つの活動を、①わくわくの出会いの活動、②いろいろな音読活動、③いきいきと表現する活動とした。

#### ① わくわくの出会いの活動(図2)

伝統的な言語文化に親しむためには、児童が古典の世界を身近に感じられるようになることが必要である。そのためには、単元の導入段階での教材との出会いの活動が重要になってくる。児童は実際に経験していない古典の世界をイメージすることは難しい。そこで、絵本や漫画、視聴覚教材、実物等を活用し、イメージをつかむ手助けをすることが必要となってくる。また、クイズ形式などを取り入れ、楽しくその時代の文化に触れることができるようにしていくことが大切である。

#### ② いろいろな音読活動(図3)

伝統的な言語文化に親しむためには、まず音読により日本語の美しい響きやリズムに触れることが大切である。いろいろな音読の方法を取り入れ、楽しみながら読んでいくうちに、少しずつ書かれている内容も分かるようになるであろう。児童は、声に出して音読することが好きである。原文と現代語の読み方の違いについては、読み方を隣に書いて児童の抵抗を取り除くなどの工夫をして、いろいろな音読活動を楽しんでいけるようにしたい。

#### ③ いきいきと表現する活動(図4)

伝統的な言語文化に親しみ、児童が意欲的に学習に取り組めるようにするためには、主体的に学習できる活動を取り入れていくことが必要である。学習指導要領の指導事項には「読み聞かせを聞く・演じる・音読・暗唱」等が挙げられている。解説編には、「創作・鑑賞・表現」といった内容が盛り込まれている。したがって、単元計画の中に表現する活動を位置付け、音読劇を発表したり、俳句を作ったりする活動を取り入れていく。このような活動を行うことにより、学習意欲も高まっていくと考える。

### (2) 指導の手引き「伝統的な言語文化に親しむための楽しい授業づくり」の内容

指導の手引きは、Ⅰ学習系統表、Ⅱ伝統的な言語文化の指導のポイント、Ⅲ単元計画・略案・板書計画・ワークシート・資料、の三つの編で構成した。以下はその目次である(表2)。



図2 わくわくの出会いの活動

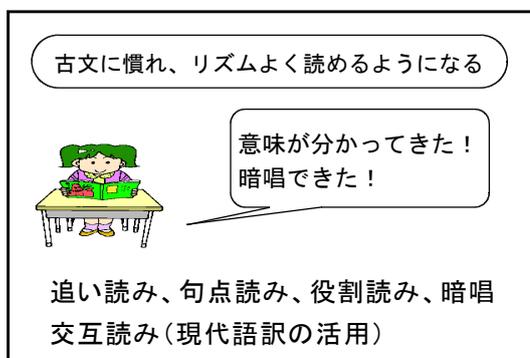


図3 いろいろな音読活動

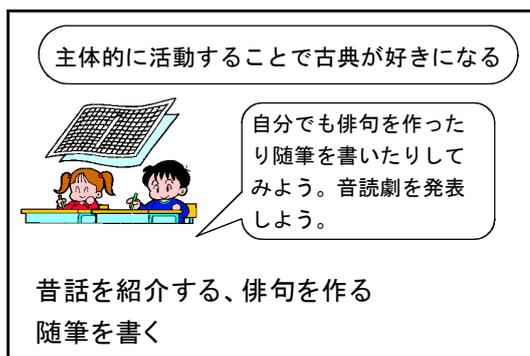


図4 いきいきと表現する活動

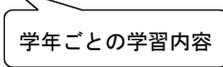
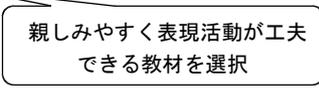
## 表2 指導の手引きの目次

<はじめに>
○楽しい授業づくりの三つのポイントについて
○いろいろな音読活動といきいきと表現する活動を織り交ぜた指導について

I 学習系統表			
II 伝統的な言語文化の指導のポイント			
1 昔話 2 神話・伝承 3 俳句 4 短歌 5 ことわざ・慣用句・故事成語 6 古文 7 漢文 8 近代以降の文語調の文章 9 古典について解説した文章			
III 単元計画・略案・板書計画・ワークシート・資料			
1	昔話	第1学年 昔話を読もう 第2学年 むかしむかしのお話を集めよう	教材「おはなしのくに」 教材「かさこじぞう」
2	神話・伝承	第2学年 音読劇をしよう	教材「いなばのしろうさぎ」
3	俳句	第3学年 俳句を作ろう	教材「雪とけて村いっばいの子どもかな」他
4	短歌	第6学年 連歌の会をしよう	教材「小倉百人一首」「万葉集」「サラダ記念日」
5	ことわざ・慣用 句・故事成語	第3学年 かるたで遊ぼう 第4学年 ことわざを紹介しよう	教材「いろはかるた」 教材「ことわざかるた」
6	古文	第5学年 昔の人のものの見方・感じ方を知ろう 第5学年 わたしも随筆家	教材「竹取物語」 教材「枕草子」
7	漢文	第5学年 論語を読もう	教材「論語」
8	近代以降の 文語調の文章	第6学年 主人公はどんな人？	教材「坊っちゃん」「吾輩は猫である」「三四郎」
9	古典について 解説した文章	第6学年 狂言や落語を鑑賞しよう	教材狂言「附子」 落語「寿限無」

I章の学習系統表は、各学年の学習内容と教材、学習活動が一目で分かるよう、一覧表にまとめた(表3)。

表3 学習系統表

学 年	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	教 材	学習活動
1 ・ 2 年	(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。 	○昔話 「かぐやひめ」 「かさこじぞう」 ○神話 「いなばのしろうさぎ」 「すさのおとおおくにぬし」 「うみさちやまさち」 ○伝承 「群馬の民話や伝説」	・読み聞かせ ・お話の紹介 ・ペープサートによる音読劇 ・昔話集め ・紙芝居作り
3 ・ 4 年	(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。 (イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	○俳句 (良寛・芭蕉・一茶・子規・蕪村)  ○ことわざ (いろはにほへと) ○慣用句 ○故事成語	・音読 ・視写 ・俳句づくり ・句会を開く ・五色百人一首 ・連歌
5 ・ 6 年	(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 (イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。	○古文 「竹取物語」「平家物語」 「枕草子」 ○漢文 「論語」 ○短歌 (小倉百人一首、万葉集) ○文語調の文章 「坊っちゃん」「吾輩は猫である」「三四郎」 ○落語、狂言 「寿限無」「附子」	・音読発表会 ・素読 ・随筆を書く ・読書座談会 ・古典芸能の鑑賞

Ⅱ章では、各学習内容ごとに指導方法や学習形態のモデルを提案した。これによって、教材が変わったとしても同じ学習内容の場合には、同じ方法で授業づくりをしていくことができるような手引き書とした（図5）。

## 伝統的な言語文化に親しむために

5・6年

6 古文



導入

【わくわくの出会いの活動】

- ①絵本や漫画、視聴覚教材、実物等を用いて、教材への興味・関心を高める。
- ②クイズ形式（下記例参照）などで、古文の特色、貴族や武士の生活や考え方を紹介し、楽しみながらその時代の特色に触れることができるようにする。

### 平安時代クイズ



1 平安時代に美人といわれた女の人の顔はどちらでしょう。

A 目がぱっちり、鼻も高い 小顔

B 目がほそく、ほっぺがぶっくりの 大きな顔

答え B



3 平安時代に好きな人に思いを伝えるとき、どんな方法をつかったでしょう。

A プレゼントをわたした。

B 歌をおくった。

C 無理やり好きな人の家におし寄せた。

答え B 歌をおくった。



展開

【いろいろな音読活動】

- ③いろいろな音読活動を取り入れ、古典のリズムや日本語の美しい響きを感じ取ることができるようにする。
- ④現代語訳を有効に活用し、あらすじをつかむことができるようにする。

【いきいきと表現する活動】

- ⑤作者や登場人物に親しみがもてるような活動を取り入れ、古典を身近に感じられるようにする。

まとめ

【いろいろな音読活動】

- ⑥好きな場面を暗唱したり、グループで役割読みをしたりして、楽しく原文に親しむことができるようにする。

【いきいきと表現する活動】

- ⑦お気に入りの人物紹介をしたり、随筆を書いたりする活動を取り入れ、友達同士で考えを伝え合い、いろいろな見方や考え方に気付くことができるようにする。
- ⑧伝統文化が現代の生活にも生きていることを実感し、古典の世界と自分たちの住む現代の世界のつながりに気付くような学習活動を行っていきけるようにする。

常時活動

【いろいろな音読活動】

- 朝や帰りの会で、短い原文を読む活動を取り入れ、自然に暗唱できるようにする。
- 学級文庫や学校図書館に古典コーナーを作り、日常的に親しめるようにする。

図5 伝統的な言語文化の指導のポイント(5・6年 古文)

Ⅲ章が具体的な授業のための指導事例である。単元の指導計画を基に、1時間の授業の略案や板書計画、ワークシートや資料などを載せた。学習内容ごとに学年順に配列し、授業で活用できる参考図書や関連Webページも指導計画の中に明記した。

#### IV 研究の結果と考察

教材との出会いを工夫し、音読活動と表現する活動を織り交ぜた学習を行うことにより、伝統的な言語文化に親しむ児童を育てることができると考え、作成した指導の手引きを使用して、第5学年で2回の授業実践を行った。

また、第2学年・第3学年・第6学年については、協力校の他の先生にお願いして、指導の手引きを使用し、授業をしていただいた。

##### 1 実践授業1

###### (1) 指導計画(全4時間)

単元	昔の人のものの見方・感じ方を知ろう 「竹取物語」 対象 第5学年		
目標	○「竹取物語」に関心をもち、意欲的に読もうとする。 ○昔の人のものの見方や感じ方を知り、古典に親しむ。		
評価 規 準	<b>【関心・意欲・態度】</b> 「竹取物語」に関心をもち、意欲的に読もうとしている。 <b>【読む能力】</b> 登場人物の行動からそれぞれの性格を想像し、自分の考えをまとめている。 <b>【伝統的な言語文化に関する事項】</b> 自分たちの生活と比べながら読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ろうとしている。		
過程	時	学 習 活 動	研 究 上 の 手 だ て
つ か む	1	作品と出会い、単元の学習内容を知る。 <b>【わくわくの出会いの活動】</b> 指導の手引き II 伝統的な言語文化の指導のポイントの番号と対応しています。	①物語を読む前に、「竹取物語」のDVDを紹介することで、昔の物語が現代でも親しまれていることに気付くことができるようにする。 ②クイズ形式を取り入れることで、楽しみながら昔の文化に触れることができるようにする。
		③冒頭部分の原文を声に出して読むことで、原文と現代語訳の共通点や相違点に気付くことができるようにする。 ④絵本による簡単な現代語訳を読み聞かせることで、あらすじを理解できるようにする。	・DVD「竹取物語」(東宝 市川崑 監督作品) ・平安時代クイズ(指導の手引きに掲載) ここに授業で有効に活用できた資料を載せています。
追 究 す る	2	原文を声に出して読んだり、現代語訳と比べて読んだりすることを通して、原文に触れ、意味を考えながらあらすじを理解する。 <b>【いろいろな音読活動】</b>	⑤5人の貴公子の行動から会話文を想像し、それぞれの性格を短い言葉で表すことにより、貴公子の性格を考えることができるようにする。
		5人の貴公子の行動から会話文を考えて発表し、それに対する自分の考えをもつ。 <b>【いきいきと表現する活動】</b>	・現代語訳(指導の手引きに掲載) ・絵本「かぐや姫」(舟崎克彦 著 日本おはなし名作絵本)
ま と め る	4	帝が不老不死の薬を捨ててしまった理由を考えながら、昔の人と現代人の共通する思いについて話し合う。	⑧月の世界と人間の世界を比較することを通して、どちらの生き方がより人間らしい生き方を考えることができるようにする。
			・全4時間分の略案、板書計画、ワークシート(指導の手引きに掲載)

## (2) 結果

### ① わくわくの出会いの活動について

平安時代クイズを行い、楽しく考えながら時代背景に触れていった。児童はクイズが大好きなので、活発に手が挙がり、授業が盛り上がった。第1時の授業を楽しく行うことができたので、古文学習に対する児童の意欲が高まっていった。平安時代の服装や生活様式、文化について説明する際には写真を示し、理解の手助けができるようにしたところ、児童は、平安時代について、イメージを膨らませることができた(表4)。

### ② いろいろな音読活動について

児童の理解を手助けするために『竹取物語』の児童用の現代語訳を用いて授業を行った。しかし、現代語訳であっても児童にとっては理解することが難しく、また、その量の多さに圧倒されてしまった様子も見られた。そこで、冒頭の原文を読む活動で、その意味を考える際に現代語訳を使い、全体のあらすじは簡単な絵本で理解していくようにした。意欲の高い児童や興味のある児童は家庭学習の一つとして、授業で扱わなかった部分の現代語訳を読み進めていた(表5)。

### ③ いきいきと表現する活動について

「竹取物語」に出てくる5人の貴公子の行動から、その会話文を考えるという活動を行った。セリフを考え、それを寸劇にして発表したので、教室が笑いに包まれた楽しい授業になった。児童は、千年前の昔の人も、現代の人と考え方は変わらないということに気づき、昔の人に親しみをもつことができた(表6)。

## (3) 考察

古典の世界は、児童の日常とかけ離れた世界である。千年以上前に書かれた文章であるということで、児童は、古典は難しいという先入観をもっている。その時代の文化や生活についての知識がなければ、物語の内容を理解することは難しいことも事実である。そこで、楽しく教材と出会うことで、児童の学習意欲を高めていく必要がある。見たことや経験したことがないものが多いので、視聴覚教材も大変有効であるということが分かった。

現代語訳の与え方については、配慮をする必要がある。現代語訳と言っても、児童にとっては難しい文章で、意味もとらえにくい内容のものがある。場面を絞って効果的に活用したり、児童用の現代語訳をさらに分かり易く、直して提示したりすることが必要であるということが分かった。

表現活動では、いきいきと楽しそうに活動する姿が見られ、楽しみながら登場人物に親しみをもつことができた。このことから、表現活動を通して、物語に対する理解をより一層深めることができるということが明らかになった。

## 2 実践授業2

### (1) 指導計画(全5時間)

単元	わたしも随筆家 「枕草子」 対象 第5学年
目	○「枕草子」を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。
標	○「枕草子」の表現方法を参考にして、自分の考えや発見したことについて、楽しみながら随筆を書くことを通して、古文に親しみをもち、日常生活や自然を見つめる目を養う。

表4 第1時の振り返り

- ・最初は少し難しいかなと思ったけれど、DVDやクイズなどで楽しく学習できたのでよかったです。
- ・絵や写真がたくさんあったので、分かりやすかったです。

表5 第2時の振り返り

- ・「竹取物語」の話がこんなに長く、いろいろな出来事があったなんて知りませんでした。とても長いお話だと知って驚きました。
- ・初めの部分を何度も読んでいるうちに、覚えることができました。家で少しずつ続きを読みたいと思います。

表6 第3時の振り返り

- ・いろいろな人が出てきておもしろかったです。昔の貴族の人たちの性格を想像するのが楽しかったです。
- ・現代の世界は、昔からつながっているのだということが分かりました。

評価規準	<p>【関心・意欲・態度】 単元の学習への見通しをもち、「枕草子」を楽しみながら読もうとしている。</p> <p>【書く能力】 自分が興味のあるテーマについて、考えや発見したことをまとめ、随筆を書いている。</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 「枕草子」を読み、昔の人のものの見方・感じ方に触れ、共感できるところや自分とは考えが違いうところに気付こうとしている。</p>				
	過程	時	学習活動	研究上の手だて	参考資料
つかむ	1	<p>平安時代に書かれた随筆に興味をもち、楽しく学習が進められるようにする。</p> <p>○常時活動 新聞記事の感想を書いたり、テーマを決めて短作文を書く活動をしたりすることを通して、ものの見方を広げ自分の考えをもつ学習をしていく。児童は、この学習で初めて随筆というジャンルに出会う。日本では、昔から随筆という文章表現が受け継がれてきた。記事を読んだ感想をまとめていくことを通して、物事を主体的に見つめ、自分の考えをもつ姿勢を養うと共に、随筆の形式で文章をまとめていくことに慣れていくようにしたい。</p>			<p>・漫画「枕草子」 (NHKまんがで読む古典)</p>
		<p>作品と出会い、単元の学習内容を知る。 【わくわくの出会いの活動】</p>	<p>①親しみやすい漫画やDVDを用いて、「枕草子」について紹介することで、学習への意欲を高めていけるようにする。</p>	<p>・DVD「枕草子」 (サンエデュケーションルアニメ古典文学館) ・NHK10min.ボックス(古文・漢文) <a href="http://www.nhk.or.jp/10min">http://www.nhk.or.jp/10min</a></p>	
追究する	2	<p>自分が興味をもった段を原文と現代語訳を対比させながら読む。 【いろいろな音読活動】</p>	<p>③原文の中から自分が共感できる部分、または自分とは考えが違う部分を選び音読をし、グループで音読や自分の考えを紹介し合う活動を通して、楽しみながら原文のリズムを感じ取ることができるようにする。</p>	<p>関連するWebサイトの情報も入れました。</p> <p>・原文、現代語訳 (指導の手引きに掲載)</p>	
	3	<p>自分が選んだテーマについて随筆に書く内容をメモにまとめ、整理する。 【いきいきと表現する活動】</p>	<p>⑦「枕草子」の形式に従って教師が書いた随筆を紹介することにより、随筆を書くことの楽しさを感じることができるようになる。</p>	<p>・全5時間分の略案、ワークシート (指導の手引きに掲載)</p>	
	4	<p>選んだテーマについての随筆を書く。 【いきいきと表現する活動】</p>	<p>⑦児童が負担に感じることがないように、形式にはあまりこだわらないようにし、楽しく自分の考えが表現できるようにする。</p>	<p>・随筆の例文 (指導の手引きに掲載)</p>	
まとめる	5	<p>作品を発表し合い、友達の表現のよさやおもしろさについて交流する。</p>	<p>⑧全員の随筆を1冊の作品にして製本することで、書き上げたことに対する達成感や満足感を味わうことができるようにする。</p>		

## (2) 結果

### ① わくわくの出会いの活動について

「枕草子」の学習では、四季折り折りの情景の美しさを感じ取ることが必要になってくる。しかし、授業を行ったのは秋なので、児童は、春や夏の風景や感情を思い起こすことが難しかった。そこで映像を見せ、それぞれの季節の様子を思い出す手助けとした。また『枕草子』やや清少納言の説明には漫画を使ったことにより児童は平安文化や随筆に対して興味を示し、学習意欲を高めることができた(表7)。

### ② いろいろな音読活動について

実践1では、長い物語を読むことに抵抗を感じた児童がいたので、今回は教材として一つの段が短い文章でまとまっている随筆を選んだ。歴史的仮名遣いがあり難しいと思われた原文を読む活動では、グループで読み方を話し合いながら、楽しそうに練習する姿が見られた。授業後には、分からない言葉の意味を知りながら読むのが楽しかったという声が聞かれた(表8)。

### ③ いきいきと表現する活動について

児童は、実践1での楽しかった表現活動を覚えていて「今度はどんな活動をするのだろう」と楽しみにしている様子が見られた。実践2の表現活動は、随筆を書くというものであった。教師や他の学校の児童が書いた例を紹介したり『枕草子』の短い段を紹介したりして、軽い気持ちで書く活動に取り組めるようにした。その結果、全員の児童が1時間の中で、自分が決めたテーマで随筆を書き上げることができた(図6)。そして、随筆に親しみ、6年生での古典学習を楽しみにする児童も見られた(表9)。

## (3) 考察

難しい原文の言葉の意味を考えながら音読した結果、児童は、原文を読みこなすことができたという達成感を感じることができたようである。実践を通して、難しい課題を解決していくことに喜びを感じ、それが児童の学習意欲につながっていくことが分かった。いろいろな読み方で何度も練習するうちに暗唱できた児童も多く、そのことが自信へとつながったようである。児童は声に出して音読することが好きである、ということをも改めて実感することができた実践であった。

随筆を書く活動については、最初、書くことに抵抗を感じている児童が見受けられた。書くことは読むことに比べて難しいと感じる児童が多いということが分かった。そこで、まず学校行事や生活の中から題材を見付け出し、そこから連想できる言葉や出来事を全員で話し合った。その中から自分が書きたい事柄を選んで書くという支援は有効であることが分かった。児童が無理なく書く活動に取り組むことができるよう、きめ細かな支援を準備しておくことが重要であると考えた。

## 3 まとめ

実践の前は、37人中26人の児童が、古文は難しそうと答えていた。しかし、実践1終了後には、35

表7 第1時の振り返り

- ・DVDを見て、春夏秋冬それぞれの季節で美しさがあるということに気が付きました。
- ・漫画を読んで、どうして「枕草子」という題名なのかが、よく分かりました。

表8 第2時の振り返り

- ・原文を覚えられて、調子よく読めてよかったです。友達と声を合わせて読むのは、とても楽しかったです。
- ・原文のとなりに現代語訳があったので、意味が分かりやすかったです。

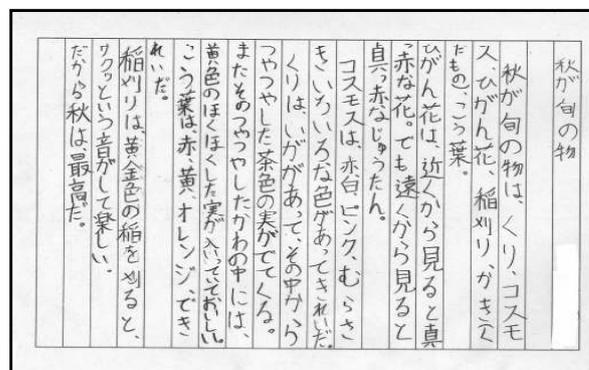


図6 児童が書いた随筆

表9 第5時の振り返り

- ・自分で随筆を書けるようになったので、これからも書いていこうと思います。
- ・6年生ではどんな古典を読むのか楽しみです。「源氏物語」を読みたいです。

人の児童が、実践2終了後には、学級全員の児童が、「古文は楽しかった」と答えた（図7）。なぜ楽しかったのかを聞いたところ、「今まで知らなかった平安時代についていろいろ知ることができた」「原文を暗唱することができた」「随筆というものがあることを知り、自分も書けたことがうれしかった」という声が聞かれた（表10）。

このような児童の変容から、教材との出会いを工夫し、音読活動と表現する活動を織り交ぜて作成した指導の手引きは、伝統的な言語文化に親しむ児童を育てるために有効に活用できることが、実践を通して明らかになった。

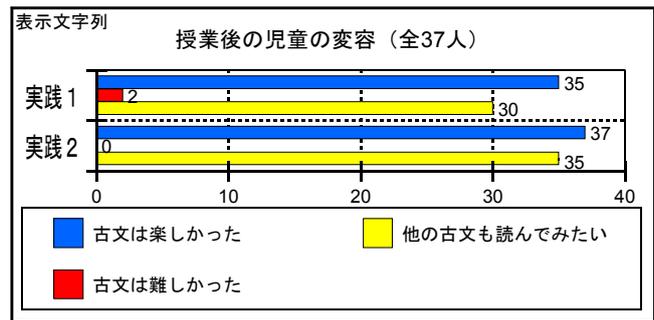


図7 授業後の児童の変容

表10 実践後の児童の感想

- ・「かぐやひめ」の絵本には載っていなかったことがいろいろ分かりました。富士山と関係があることも分かって、今まで知らなかったことを知るの楽しいと思いました。今まで、古典は古い話だからつまらないと思っていましたが、「竹取物語」を読んで、歴史も知ることができ、古典が好きになりました。
- ・「枕草子」の春はあけぼのの段を覚えることができ、うれしかったです。清少納言についても知ることができました。昔の話は意外におもしろいと思いました。この勉強はとても楽しかったです。

## V 研究のまとめ

### 1 成果

- 指導の手引き作成の基本方針として、指導方法を教材との出会いを工夫すること、音読活動と表現する活動を織り交ぜた学習にすることとした結果、児童が意欲的に学習に取り組むことができ、その時代に興味をもったり、原文を音読することに慣れたりして、古典に親しむことができた。
- 伝統的な言語文化の指導方法の基本的な形を、明確にすることができた。これに沿った方法で学習内容ごとに指導のポイントを示すことができ、いろいろな教材において活用できる手引きとなった。

### 2 課題

- 伝統的な言語文化に親しむ授業を行うためには、参考図書、写真や映像資料等、児童の関心を高める教材が必要になってくる。児童が十分に活動できるよう、教材や資料を整えることは差し迫った課題である。特に、古文や漢文の現代語訳については、中学生以上を対象にしたものが多く、児童にも楽しく理解できる内容のものが少ない。指導者が児童の実態に合った訳文を事前に用意し、効果的に活用していくことが必要である。
- 伝統的な言語文化の学習を行うに当たり、多くの学校で活用できるような指導の手引きを目指してきた。その際、協力校の児童の姿を基にして改善をしてきた経緯がある。したがって、より汎用性のある手引きにするために、他校を含めた多くの先生方に活用していただきながら、児童が楽しく学習を進められるような支援の方法を複数示していくなど、さらに修正を加えてよりよい手引きとしていく必要がある。

### <参考文献>

- ・田近 洵一、井上 尚美 編 『国語教育指導用語辞典』 教育出版(2010)
- ・長崎 伸仁、石丸 憲一 編著 『表現力を鍛える文学の授業』 明治図書(2010)

